AMP.CRL.v2026-11-20.q46

試験コード：	CRL
試験名称：	Certified Reliability LeaderExam
認証ベンダー：	AMP
無料問題の数：	46
バージョン：	v2026-11-20
ページの閲覧量：	108
問題集の閲覧量：	461

https://www.jpnshiken.com/shiken/AMP.CRL.v2026-11-20.q46.html

質問: **1**
根本原因分析はどのように定義されるのか？
A. 誰に過失があるかを判断する
B. 故障の根本原因を特定する
C. 信頼性が低い原因を特定する
正解: **B** (コメントを発表する)
根本原因分析とは、故障の主な原因または根本的な原因を特定することと定義されるため、Bが正解です。
RCAは責任追及のためのものではありません。信頼性の低い文化では 誰が原因か？」と問われますが、成熟した信頼性の文化では どのような状況、決定、仕組み、あるいはシステムの弱点がこの障害を引き起こしたのか？」と問われます。したがって、選択肢Aは誤りです。なぜなら、責任の所在を追及することは、通常、学習を妨げ、防御的な行動を助長するからです。
オプションCは範囲が広すぎます。RCAは信頼性の向上を支援する可能性があり、RCAを繰り返し行うことで信頼性低下の原因が明らかになる場合もありますが、RCAの具体的な定義は、特定の故障や問題の根本原因を調査することです。CRLの用語では、RCAは欠陥の排除、再発防止、および証拠に基づく是正措置を支援するため、保守のための信頼性工学と密接に関連しています。適切に実行されたRCAは、症状と原因を分離し、証拠を検証し、原因を除去または制御する措置を生み出します。ASQはRCAを、問題の原因を明らかにするために使用されるアプローチ、ツール、および技術と定義しており、これはオプションBに最も直接的に一致します。

質問: **2**
資産運用においてリスク管理が重要なのはなぜですか？
A. 悪影響を排除する
B. リスク管理は資産管理の意思決定に役立つ
C. 価値の提供を保証します
正解: (正解を表示します)

正解はBです。リスク管理は資産管理の意思決定に役立ちます。資産管理では、設計、取得、運用、保守、更新、交換、廃棄、投資、およびリスク処理に関する意思決定が必要です。不確実性、結果、可能性、暴露、管理、および事業目標が理解されていない限り、これらの意思決定は適切に行うことができません。オプションAは、リスク管理がすべての負の結果を排除するわけではないため誤りです。リスクの一部は軽減され、一部は移転され、一部は受け入れられ、一部は監視されます。オプションCは魅力的ですが、範囲が広すぎます。リスク管理は価値の提供をサポートしますが、それが重要な直接的な理由は、資産管理の意思決定を改善することです。CRL資産管理では、リスク管理は、リーダーがどこに投資するか、どの故障モードが重要か、どの管理が正当化されるか、どのライフサイクル決定が組織の価値を保護するかを決定するのに役立ちます。ISO 31000は、リスクを目標に対する不確実性の影響として捉え、リスク管理が計画と意思決定を改善すると説明しており、オプションBを裏付けています。

質問: **3**
資産管理ポリシーの所有者は誰ですか？
A. 資産管理部門／部署
B. 人事部
C. 上級管理職／トップマネジメント
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はCです。上級管理職／トップマネジメント。資産管理方針はリーダーシップ文書であるため、資産管理部門だけでなく、上級管理職またはトップマネジメントが所有権を持つ必要があります。この方針は、資産管理に関する組織の意図、方向性、および原則を定義します。組織の目標と整合し、資産管理の目標、意思決定、ガバナンス、およびライフサイクル価値実現のための枠組みを提供する必要があります。資産管理部門はシステムの維持、調整、または促進を行うことはできますが、資産管理は運用、保守、エンジニアリング、財務、調達、リスク、および経営上の意思決定に影響を与えるため、単独で方針を 所有」するべきではありません。人事部も誤りです。人事部は能力と役割をサポートすることはできますが、資産管理方針を所有するわけではありません。ISO 55001スタイルのガイダンスでは、資産管理方針、SAMP、および目標が確立され、組織の目標と整合していることを確認するなど、リーダーシップとコミットメントを示す明確な責任がトップマネジメントに課せられています。そのため、上級管理職／トップマネジメントがCRLに準拠した正解となります。

質問: **4**
重要度分析における意思決定の根拠となるのは、次のうちどれですか？
A. 報酬
B. リスク
C. AIM
正解: **(**正解を表示します**)**

正解はB. リスクです。重要度分析は、資産または故障シナリオを、その結果の深刻度、そして多くの場合、故障に関連する可能性または影響度に基づいてランク付けします。その目的は、信頼性、保守、検査、予備部品、および投資の決定に優先順位を付けることができるように、どの資産が最も重要であるかを特定することです。重要度分析は主に結果、リスク、影響に関心があり、財務上の利益には関心がないため、報酬は基準ではありません。AIMも答えではありません。資産の健全性管理は重要度の結果を使用することがありますが、分析の基準ではありません。CRL保守のための信頼性エンジニアリングでは、重要度分析は、故障が最も重要な場所に信頼性の取り組みを集中させるための論理を提供します。これは、不均等な資産を均等に扱うことを防ぎます。高リスクの資産は、状態監視、予防保守、冗長性、予備部品、または再設計を正当化する可能性があり、低リスクの資産は、故障するまで稼働することを正当化する可能性があります。保守重要度ガイダンスは、資産の故障がもたらす影響によって重要度を定義し、リスク分析を確率と深刻度に関連付けます。

質問: **5**
組織が信頼性に関する目標を設定する際に、通常考慮する項目は次のうちどれでしょうか？
A. 競合他社のパフォーマンスを上回る
B. 組織の目標に沿う
C. 部門目標の達成
正解: **B** (コメントを発表する)
正解は 組織の目標に合わせる」です。信頼性目標は、組織の目標、使命、戦略、および資産管理目標と整合していなければなりません。信頼性プログラムは、企業価値を支える目標でない限り、個別の技術目標を追い求めるべきではありません。たとえば、MTBFの改善は、安全性、生産性、品質、顧客サービス、コスト、リスク、またはライフサイクル価値の向上につながる場合にのみ有用です。競合他社のパフォーマンスを上回ることは、市場における目標としては有用かもしれませんが、競合他社のデータは不完全であったり、比較できなかったり、組織の運用状況と無関係であったりする可能性があるため、内部の信頼性目標を設定する適切な根拠にはなりません。部門ごとの目標を達成することも視野が狭すぎます。保守、運用、エンジニアリング、調達、財務の各部門がそれぞれローカル目標を達成しても、企業全体のパフォーマンスは依然として低いままです。
CRLの信頼性リーダーシップにおいて、リーダーシップは信頼性目標を組織の方向性と整合させ、チームが局所的な最適化に陥らないようにする必要がある。資産管理は、資産から価値を実現するための協調的な活動と定義されており、信頼性目標は個々の部門のパフォーマンスではなく、組織全体の価値を支えるものでなければならないことを強調している。

質問: **6**
次のパーセンテージのうち、新しい信頼性戦略が持続的なビジネス成果を生み出すことに失敗する割合を一般的に定義するものはどれですか？

A. 60%～70%
B. 40%～50%
C. 10%～20%
正解: **A** (コメントを発表する)
正解はA. 60%～70%です。ここで問われているのは、信頼性に関する数学的な公式ではなく、リーダーシップの現実です。多くの信頼性戦略は、組織が十分なリーダーシップの支援、文化的な整合性、能力開発、ガバナンス、業務プロセスの規律、説明責任なしに技術的な取り組みを開始するため、持続的なビジネス成果を生み出すことができません。信頼性プログラムには、RCM、RCA、PM最適化、状態監視、計画、スケジューリングといった強力なツールがあっても、従業員がそれらの行動を採用しない場合や、リーダーシップが相反する優先事項によって戦略が覆されてしまう場合は、やはり失敗に終わります。
60%から70%という範囲は、多くの変革努力が意図した成果を達成できないという、よく引用される変革管理の観察結果と一致しています。オプションBは、大規模な変革イニシアチブの一般的な失敗率を過小評価しており、オプションCは組織の信頼性変革としては低すぎます。CRLの「信頼性のためのリーダーシップ」では、技術的な信頼性戦略だけでは不十分であるという明確なメッセージが示されています。持続的な成果には、リーダーシップ、変革管理、コミュニケーション、エンゲージメント、そして強化が必要です。

質問: **7**
以下のうち、人材計画の基礎となるものとみなされるのはどれですか？
A. 能力ニーズ
B. 人事方針
C. 組織図
正解: **A** (コメントを発表する)
信頼性組織はまず、戦略を実行するために必要な能力を理解する必要があるため、能力ニーズは人材計画の正しい基盤となります。人材計画は、組織図の枠を埋めたり、一般的な人事方針に従ったりするだけのものではありません。現在および将来のパフォーマンスに必要な技術、分析、リーダーシップ、安全、計画、状態監視、信頼性エンジニアリング、および作業実行の能力を特定する必要があります。オプションBは、人事方針が雇用慣行を規定するものの、信頼性戦略によって生み出される能力需要を定義するものではないため、誤りです。オプションCも、組織図は構造と報告ラインを示すものであり、それらの役割を担う人々が業務遂行に必要なスキルを持っているかどうかを示すものではないため、誤りです。CRLの「信頼性のためのリーダーシップ」では、信頼性パフォーマンスは人々が適切な作業を正しく実行できる準備ができているかどうかにかかっているため、能力ベースの学習と人的資本管理が中心となっています。Reliabilitywebは、稼働時間要素に基づく能力モデルが、効果的な信頼性リーダーになるために必要なスキル、知識、および特性を特定すると述べています。そのため、能力ニーズは適切な基盤となります。

質問: **8**

異なる運用条件下にある類似の資産は、通常どのように扱われるのでしょうか？
A. それぞれに異なるメンテナンス作業が割り当てられています
B. OEM/サプライヤーの推奨事項に従います
C. 標準的なアプローチに準拠しています
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はAです。それぞれに異なる保守作業が割り当てられます。類似の資産であっても、動作環境によって故障挙動が大きく異なるため、必ずしも同一の保守戦略が必要となるわけではありません。同一のポンプ、モーター、コンプレッサー、バルブ、コンベア、またはギアボックスであっても、負荷、デューティサイクル、温度、汚染レベル、起動 停止頻度、振動への曝露、潤滑条件、製品特性、アクセス性、または故障の影響が異なる場合があります。これらの違いによって、故障モード、劣化率、検査間隔、および作業の有効性が変化する可能性があります。OEMの推奨事項は出発点として役立ちますが、通常は一般的なものであり、実際の現場の運転条件を完全に考慮することはできません。標準的なアプローチは効率的に見えるかもしれませんが、リスクの低い資産では過剰な保守、より過酷な使用条件や重大な結果にさらされる資産では保守不足につながる可能性があります。CRLの保守のための信頼性エンジニアリングでは、保守戦略は故障モードに基づき、状況に応じて調整する必要があります。同じ資産タイプであっても、機能、影響、および動作環境によって、予防的、予測的、検査、潤滑、または故障まで運転する戦略が異なる場合があります。したがって、異なる稼働条件下にある類似の資産には、通常、それぞれ異なる保守作業が割り当てられる。

質問: **9**
圧縮空気漏れ検知テストの頻度に関するベストプラクティスは、次のうちどれですか？
A. 毎年
B. 年2回
C. 四半期
正解: **(**正解を表示します**)**
圧縮空気の漏れは、ホース、継手、レギュレーター、バルブ、クイックコネクタ、シール、配管が劣化したり、通常の運転中に影響を受けたりすると継続的に発生するため、四半期ごとの検査が最善の回答です。年次検査はプログラムがないよりはましですが、エネルギーの無駄が長期間隠されたままになる可能性があります。半年ごとの検査はより効果的ですが、圧縮空気の需要が大きいプラントでは、四半期ごとの検査が信頼性とエネルギー管理の点でより優れた方法です。圧縮空気は高価であり、漏れは回避可能なコンプレッサー負荷、エネルギーの無駄、システム圧力の低下、ツールの性能低下、および機器の稼働時間の増加を引き起こします。CRL資産状態管理では、圧縮空気の漏れ検出は状態監視活動であり、漏れが高周波音を発生させるため、一般的に超音波を使用して実行されます。米国エネルギー省は、超音波音響検出器を漏れを検出する効果的な方法として認識しており、現在の状態監視ガイダンスでは、プラントの規模と使用状況に応じて、四半期ごとまたは半年

ごとの超音波調査を推奨しています。回答の選択肢を考慮すると、四半期ごとの検査が最も効果的な頻度です。

質問: **10**
資産管理戦略または戦略的資産管理計画（SAMP）の目的は以下のとおりです。
A. 組織全体における資産維持管理の長期戦略を策定する。
B. 組織目標を達成するために、資産から価値を生み出すための長期戦略を定義する。
C. 組織全体にわたる資産のアップグレードとオーバーホールを実施するための長期戦略を策定する。
正解: **B** (コメントを発表する)
正解はBです。資産から価値を生み出し、組織目標を達成するための長期戦略を定義します。戦略的資産管理計画は、保守、アップグレード、オーバーホール計画よりも広範です。組織目標と資産管理目標を結びつけ、資産が長期的にどのように価値を生み出すかを説明します。オプションAは狭すぎます。資産管理は資産保守とは異なります。保守はライフサイクル活動の1つですが、SAMPは取得、運用、リスク、パフォーマンス、更新、交換、廃棄、投資優先順位、ガバナンスもカバーします。オプションCも狭すぎます。アップグレードとオーバーホールは、可能なライフサイクル介入のほんの一部にすぎません。CRL資産管理では、SAMPは企業の方向性と資産関連の意思決定の間の戦略的な橋渡しとなります。これは、資産がライフサイクル全体を通して、許容可能なコストとリスクで必要なパフォーマンスを発揮するように管理されることを保証します。適切な焦点は、組織目標を支援する資産からの価値実現にあります。そのため、選択肢Bが唯一の完全な資産管理ソリューションとなります。

質問: **11**
資産管理における意思決定と資産管理計画の関係は、次のように最もよく説明できます。
A. 未接続
B. 静的およびシーケンシャル
C. 動的かつ反復的
正解: **C** (コメントを発表する)
正解はCです。動的かつ反復的。資産管理の計画と意思決定は、孤立した単発的な活動ではありません。計画は、資産が組織の目標をどのようにサポートするかを定義しますが、意思決定は、状況、コスト、リスク、パフォーマンス、利害関係者のニーズ、テクノロジー、資金、および運用環境の変化に応じて、これらの計画を継続的に更新します。選択肢Aは、意思決定と計画が関連している必要があるため、明らかに誤りです。選択肢Bも、資産管理は、計画を一度作成して盲目的に従うような厳格な手順ではないため誤りです。優れた資産管理では、フィードバックを活用します。
資産のパフォーマンスデータ、リスクレビュー、ライフサイクルコストの変化、検査、故障、および変化するビジネス優先順位は、計画の精緻化と意思決定の改善に活用されます。そのため、資産管理は静的な文書セットではなく、管理システムとして扱う必要がありま

す。ISO 55000は資産管理の原則、成果、および期待されるメリットを記述していますが、IAMライフサイクル価値ガイダンスは、資産ライフサイクル全体にわたるコストと価値に影響を与える意思決定に焦点を当てています。

質問: **12**
戦略的資産管理計画は、以下の事項を伝えるための有用なツールです。
A. 内部および外部のステークホルダー。
B. 上級管理職に報告する者。
C. 主に内部関係者。
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はAです。内部および外部のステークホルダー。戦略的資産管理計画（SAMP）は、単なる内部保守文書ではありません。資産管理が組織目標をどのようにサポートするか、資産関連の意思決定がどのように行われるか、価値、リスク、コスト、パフォーマンス、ライフサイクル計画がどのように整合されているかを伝えるものです。内部ステークホルダーには、上級管理職、運用、保守、エンジニアリング、財務、調達、および現場チームが含まれます。外部ステークホルダーには、規制当局、顧客、株主、保険会社、サプライヤー、請負業者、地域団体、および資産所有者が含まれる場合があります。オプションBは、SAMPが上級管理職に報告する人だけのためのものではないため、範囲が狭すぎます。オプションCも不完全です。資産管理は、特に資産がサービス提供、安全性、環境コンプライアンス、公共価値、および契約上の義務に影響を与える場合、外部への影響があるからです。CRL資産管理では、SAMPは組織目標と資産管理の実行の間の戦略的なコミュニケーションの架け橋として機能します。IAMガイダンスでは、SAMPは、ライフサイクル全体にわたる資産管理と組織能力の向上に適用される戦略的計画のための実践的なアドバイスとして説明されています。

質問: **13**
リスクは、最も重要なものを優先することで、資産管理の意思決定を形成する。
A. チャンス
B. 障壁
C. 障壁と機会
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はCです。障壁と機会。リスクは必ずしもマイナス面ばかりではありません。現代のリスク管理では、リスクを不確実性が目標に及ぼす影響と捉え、脅威、障壁、機会などが含まれます。資産管理においては、リスクには、故障、安全事故、環境汚染、規制違反、保守性の低さ、コスト上昇、サービスの中断といった障壁が含まれる場合があります。しかし、不確実性は機会を生み出すこともあります。ライフサイクル価値の向上、技術の改善、保守間隔の最適化、回復力の向上、省エネルギー、資産パフォーマンスの向上などです。選択肢Aは、機会だけでは有害な不確実性を無視しているため不完全です。選択肢Bも、障壁だけでは潜在的な利益や価値創造を無視しているため不完全です。資産管理の意思決定では、リスク

を用いて、保護すべきものと改善できるものの両方を優先順位付けする必要があります。これが、リスクに基づく意思決定が、純粋にコストベースまたは経年劣化に基づく意思決定よりも優れている理由です。ISO 31000では、リスクを不確実性が目標に及ぼす影響と定義し、マイナス面とプラス面の両方の不確実性をより広く扱うことを支持しています。

質問: **14**
変更管理には、以下の変更の導入に伴うリスクの管理が含まれます。
A. 組織文化
B. 人材と組織文化
C. 資産、組織、およびそのプロセス
正解: **(**正解を表示します**)**
変更管理は、資産、組織、およびプロセスへの変更によって生じるリスクを制御するため、Cが正解です。MOCは文化変革よりも広範です。機器、材料、設計パラメータ、制御ロジック、手順、運用範囲、保守間隔、サプライヤー、人員配置、ソフトウェア、文書、または組織インターフェースが変更される場合に適用されます。それぞれの変更は、意図しない結果を生み出す可能性があります。
新たな故障モード、隠れた安全上の危険、不適切な保守戦略、トレーニングのギャップ、スペアパーツの不一致、またはプロセスの不安定性。オプション A は、文化が変化の影響を受ける可能性のある領域の 1 つにすぎないため、範囲が狭すぎます。オプション B も不完全です。なぜなら、人々と文化は重要ですが、MOC は資産リスクに直接影響を与える技術的およびプロセス上の変更も管理する必要があるからです。CRL の AM ドメインでは、MOC は、資産関連の決定が管理、レビュー、承認、伝達、および検証されたままであることを保証することで、ライフサイクル価値を保護します。ISO 55000 に準拠した資産管理は、資産ライフサイクル全体にわたってパフォーマンス、コスト、リスク、および価値のバランスを取ることを中心に構築されています。管理されていない変更は、このバランスを崩します。したがって、最も広範で技術的に正しいオプションは、資産、組織、およびそのプロセスです。

質問: **15**
200万ドルの在庫の年間保管コストの典型的な割合はどれくらいですか？
A. 20%
B. 30%
C. 40%
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はBです。30%。在庫保管コストとは、在庫を保有するための年間コストであり、通常は在庫価値の割合で表されます。これには、在庫に拘束される資本コスト、保管スペース、取り扱い、保険、税金、劣化、陳腐化、減少、管理、および在庫管理の労力が含まれます。保守倉庫では、これは深刻な作業実行管理の問題です。なぜなら、計画された作業と是正作業を実行するために予備部品が利用可能でなければならない一方で、過剰な在庫は資本を浪費し、資材管理規律の不備を隠蔽するからです。20%という想定は、多くの保守環境、特に陳腐化、低速回転、または管理が不十分な予備部品が存在する環境では低すぎる可能性があ

ります。40%という想定は、在庫システムが不十分な場合に発生する可能性がありますが、一般的な回答としては高すぎます。一般的に使用される実用的な見積もりは、年間約30%です。200万ドルの在庫の場合、これは組織が年間約60万ドルの保管コストを抱えている可能性があることを意味します。したがって、CRLの信頼性リーダーは、在庫を盲目的に増減するのではなく、サービスレベル、重要度、在庫切れリスク、および保管コストのバランスを取る必要があります。

質問: **16**
新しく納入された油の清浄度を確認する際に、最初に考慮すべき事項は次のうちどれですか？
A. 潤滑油の保管
B. 潤滑油サンプリング
C. 潤滑油ブランド
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はBです。潤滑油のサンプリング。新しく納入されたオイルの清浄度は、供給業者の評判、ブランド、容器の外観、または購入仕様のみに基づいて判断することはできません。新しいオイルは自動的に清浄なオイルではありません。製造、移送、保管、配送、または供給中に混入した微粒子汚染、水、添加剤の問題、または取り扱いによる汚染が含まれている可能性があります。清浄度を確認する最初の確実な方法は、代表的なサンプルを採取し、微粒子汚染に関するISO 4406清浄度コードなどの必要な清浄度目標と比較して分析することです。潤滑油の保管は重要ですが、不適切な保管は潤滑油の状態を劣化または汚染する可能性があるため、納入受領後に重要性が増します。潤滑油のブランドは有効な確認方法ではありません。評判の良いブランドであっても、取り扱い管理が不十分であれば汚染されている可能性があります。CRL資産状態管理では、潤滑は状態管理規律として扱われます。適切なサンプリングにより、潤滑油が機器に導入される前に、サービスに適しているかどうかが検証されます。これにより、汚染された潤滑油によって引き起こされる、回避可能なベアリング、油圧システム、ギア、およびサーボシステムの故障を防ぐことができます。

有効的な**CRL**問題集はJPNTest.com提供され、**CRL**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**CRL**試験問題集を提供します。JPNTest.com CRL試験問題集はもう更新されました。ここで**CRL**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/CRL-mondaishu **128**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: **17**
根本原因分析を行う際、問題点を定義した後、どのような手順を踏むべきでしょうか？
A. 証拠を集める
B. 解決策を開発する

C. 原因を特定する
正解: **A** (コメントを発表する)
正解は A. 証拠を収集する。問題の定義後、RCA チームは原因や解決策に飛びつく前に事実を収集する必要があります。これには、物理的証拠、保守履歴、運転データ、アラーム、プロセス条件、写真、目撃者の証言、検査結果、故障したコンポーネント、タイムライン情報、および関連する環境または手順の詳細の収集が含まれます。組織はまだ故障の原因がわからないため、この段階で解決策を開発するのは時期尚早です。原因の特定も、証拠が収集、整理、分析された後に行われます。弱い RCA プロセスは問題記述から直接意見に飛びつきますが、強力な RCA プロセスは事実と仮定を区別します。CRL 保守の信頼性エンジニアリングでは、RCA は再発をなくすために使用され、経営陣を満足させる迅速な説明を作成するために使用されません。ASQ は RCA を問題の原因を明らかにするために使用される一連の方法と定義しており、構造化された RCA プロセスでは、通常、問題の定義の直後にデータまたは証拠の収集が行われます。

質問: **18**
リーン生産方式の導入において、生産性を向上させる要因は次のうちどれですか？
A. 売上予測
B. 顧客のニーズ
C. 在庫
正解: (正解を表示します)
リーン生産方式では、顧客のニーズが生産を推進します。リーン思考は、顧客視点からの価値、フロー、プル、および無駄の削減を中心に構築されています。真のプル型システムでは、下流の需要が上流の作業にシグナルを送ります。生産は主に予測や既存在庫の消費欲求によって推進されるわけではありません。オプションAは、販売予測は能力と長期的な需要の計画に役立ちますが、予測主導の生産は、実際の需要が予測と異なる場合に過剰生産、過剰在庫、および無駄を生み出す可能性があるため、誤りです。オプションCは、在庫が推進力となるべきではないため誤りです。リーンは、不要な在庫を削減し、在庫バッファの背後に問題を隠すのではなく、プロセス上の問題を明らかにすることを目指します。CRLの文脈では、これは作業実行管理につながります。規律ある実行は、局所的な保守効率だけでなく、運用フローと価値の提供をサポートしなければならないからです。リーンエンタープライズ研究所は、プル生産を下流の活動が上流の活動にニーズをシグナルを送るものと定義し、プル生産は過剰生産を排除するために機能すると指摘しています。これは、顧客のニーズが正しい推進力であることを直接的に裏付けています。

質問: **19**
計画とスケジューリングによる保守効率と有効性の向上によってもたらされた労働生産性の向上に起因する割合は、次のうちどれですか？
A. 最大60%
B. 最大30%
C. 最大50%

正解: (正解を表示します)
正解はCです。最大50%。効果的な計画とスケジューリングにより、技術者が待機、検索、移動、作業範囲の明確化、部品探し、許可取得、または調整不足による中断に費やす時間が少なくなるため、保守作業の生産性を大幅に向上させることができます。計画された作業パッケージは、実行前に作業範囲、労働力見積もり、工具、部品、安全要件、手順、アクセス要件、および受入基準を定義します。スケジューリングは、準備された作業を労働力の可用性、生産ウィンドウ、および運用上の優先順位に合わせます。これにより、作業時間が改善され、無駄な労力が削減されます。最大
30% は組織によっては現実的な改善となる可能性がありますが、CRL スタイルのベスト回答は、より高い改善の可能性である最大 50% です。最大 60% は、一般的な試験の回答としては積極的すぎます。作業実行管理では、保守実行が混乱している場合、信頼性戦略は無意味であるため、計画とスケジューリングが中心となります。より良い計画とスケジューリングは、単に管理上の秩序を改善するだけでなく、保守作業を生産的で付加価値のある作業に変換し、技術者が同じ人員でより多くの正確な作業を完了できるようにします。

質問: **20**
次のうち、資産が完全性を示す条件を定義しているのはどれですか？
A. 設置および検査済み
B. 全体的かつ完全
C. 新規および委託
正解: (正解を表示します)
正解はBです。 完全かつ全体的」。資産の健全性とは、資産が健全で完全であり、使用に適しており、意図された機能を安全かつ効果的に実行できる状態にあることを意味します。
 設置および検査済み」だけでは不十分です。資産は設置および検査済みであっても、潜在的な欠陥、不完全な保護システム、文書の欠落、不十分な試運転品質、または劣化したコンポーネントが存在する可能性があるからです。 新規および試運転済み」も不十分です。新しい資産は欠陥があったり、不適切に設置されていたり、運用環境に適していなかったりする可能性があるからです。 全体的かつ完全」という表現が、資産が構造的、機能的、および運用的に健全であることを意味するため、完全性の概念を最もよく表しています。資産管理において、完全性は表面的なものではありません。安全性、規制遵守、リスクへの曝露、ライフサイクル価値、および運用信頼性に影響します。資産の完全性管理は、資産がライフサイクル全体にわたって意図された機能を効果的、効率的、かつ安全に実行し、人、環境、および運用を保護することを保証することとして一般的に説明されます。

質問: **21**
組織が変化に抵抗する際には、以下の点が求められる。
A. 予想され、計画されている。
B. 抵抗レベルに応じて個別に処理します。
C. 管理上の強制により排除されました。

正解: (正解を表示します)
信頼性の変革は技術的な課題であると同時に、リーダーシップと文化の課題でもあるため、変化への抵抗を予測し、計画する必要があります。CRL の用語では、信頼性のためのリーダーシップは、信頼性の実践が持続的に採用されるように、整合性、スポンサーシップ、能力、信頼、および関与の構築に焦点を当てています。オプション A が正しいのは、人々が仕事の習慣、所有権の範囲、優先順位、KPI、または意思決定ルーチンを変更するように求められたときに抵抗があるのは普通のことだからです。優れたリーダーは、起こりうる抵抗を早期に特定し、変更のビジネス上の理由を説明し、影響を受ける利害関係者を巻き込み、明確にコミュニケーションを取り、人々を訓練し、実際的な障壁を取り除きます。オプション B は不完全です。後で個別の対応が必要になるかもしれませんが、組織には依然として積極的な変更計画が必要です。オプション C が間違っているのは、強制だけでは、通常、コンプライアンスの見せかけ、恐怖、隠れた抵抗、および持続可能性の低さを生み出すからです。
Reliabilitywebは、信頼性向上を実現する上で「信頼性のためのリーダーシップ」が不可欠であり、経営陣の支援と人材育成の実践が文化的な実行を支えると説明しています。優れた信頼性リーダーは、抵抗が自然に消えるなどとは考えず、抵抗を前提とした導入計画を策定します。

質問: **22**
リーン生産方式における無駄の例として、一般的に挙げられるのは次のうちどれですか？
A. 過剰資格
B. 過剰生産
C. 過度の単純化
正解: (正解を表示します)
正解は過剰生産です。リーン生産方式では、過剰生産は典型的な無駄の一つです。なぜなら、必要以上に多く生産したり、必要よりも早く生産したり、次の工程や顧客が必要とする量よりも多く生産したりすることを意味するからです。過剰生産は、在庫、保管、取り扱い、待ち時間、不良品、手直し、輸送、および拘束された運転資金の増加によって、さらなる無駄を生み出します。過剰資格は、標準的なリーン生産方式の無駄ではありません。人材が十分に活用されていない、または適切に配置されていない可能性はありますが、「過剰資格」は、ここでテストされているリーン生産方式の無駄の用語ではありません。
過度の単純化は、認識されているリーンな無駄の一つではありません。作業の簡素化は、品質や管理を損なうことなく不必要な複雑さを取り除く場合に、実際には有益です。CRL作業実行管理では、保守と運用が作業プロセスから無駄を取り除き、流れを保護する必要があるため、リーン思考が重要になります。保守の実行が不十分だと、待ち時間、過剰な動作、不必要な在庫、生産の中断が発生します。リーン・エンタープライズ・インスティテュートは、過剰生産を次のプロセスや顧客が実際に必要とするものよりも先に生産することと定義し、これを大きな無駄としています。

質問: **23**
蒸気トラップの点検頻度に関するベストプラクティスは、次のうちどれですか？
A. 週単位
B. 年2回
C. 四半期ベース
正解: **B** (コメントを発表する)
正解はBです。隔年です。スチームトラップは定期的にテストする必要があります。トラップが故障すると、エネルギーが無駄になり、暖房効率が低下し、ウォーターハンマーのリスクが生じ、凝縮水の戻りに影響し、蒸気システムの信頼性が損なわれる可能性があるためです。特定の重要なアプリケーションで異常に頻繁なチェックが必要な場合を除き、一般的なプログラムでは週ごとのテストは通常過剰です。四半期ごとのテストは、高圧、重大な結果を招く可能性のあるシステム、または問題が発生しやすいシステムには適切ですが、このCRLスタイルのコンテキストで一般的に受け入れられている実用的な頻度は隔年テストです。6か月間隔は、組織にとって欠陥検出と検査作業の適切なバランスを提供します。スチームトラップのテストは、状態証拠（多くの場合、超音波、温度比較、またはトラップ性能チェック）を使用して、システム損失が大きくなる前に、故障した開、故障した閉、漏れ、または誤動作しているトラップを検出するため、資産状態管理の一部です。重要な信頼性の原則は、検査間隔が故障の影響、トラップの数、運転圧力、およびシステムの重要度を反映する必要があるということです。提示された選択肢の中で、隔年が定期的なスチームトラップテストの最も適切なベストプラクティスです。

質問: **24**
最も重要な保守上の問題点を特定するための最良の方法として、次のうちどれが考えられますか？
A. 根本原因分析
B. パレート分析
C. ボトルネック分析
正解: **B** (コメントを発表する)
正解はBのパレート分析です。パレート分析は、保守損失、故障、ダウンタイム、コスト、再作業、生産への影響の大部分を占める「重要な少数」の問題を特定するために使用されます。これは、組織が多くの保守上の問題を抱えているにもかかわらず、リソースが限られている場合に特に役立ちます。
パレート分析では、すべての問題を均等に扱うのではなく、優先順位を付けることで、信頼性チームが最も重要な問題に集中できるようにします。根本原因分析は重要ですが、通常は重大な問題が調査対象として既に選定された後に適用されます。RCAは障害が発生した理由を特定しますが、パレート分析はどの障害に優先順位を付けるべきかを判断するのに役立ちます。ボトルネック分析は生産フローの制約を特定するのに有用ですが、データセット全体で最も重要な保守問題を特定するための最良の一般的な方法ではありません。CRLの保守向け信頼性エンジニアリングでは、パレート思考は、悪質な要因の分析、欠陥の排除、バックログの優先順位付け、PMの最適化、および信頼性改善計画をサポートし

ます。これにより、影響の小さい問題に組織が労力を浪費する一方で、影響の大きい繰り返し発生する問題がパフォーマンスを損ない続けることを防ぎます。

質問: **25**
全酸価（TAN）は次のうちどれを表していますか？
A. 様々な酸
B. 酸の量
C. 酸の種類
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はBです。酸の体積ですが、技術的には量または数量という表現の方が適切です。
実際の体積ではありません。全酸価は、オイルまたは流体サンプルの酸性度を測定します。通常、サンプル 1 グラム中の酸性成分を中和するために必要な水酸化カリウムのミリグラムで表されます。したがって、TAN は酸の種類やタイプを特定するものではありません。酸性物質がどれだけ存在するかを表すため、ビデオで利用可能な回答の中でオプション B が最も近いものとなります。CRL 資産状態管理の領域では、酸性度の上昇は酸化、潤滑油の劣化、汚染、または腐食の可能性を示す可能性があるため、TAN は重要です。信頼性のリーダーは、潤滑油がベアリング、ギア、油圧システム、または内部表面を損傷する可能性のある状態に向かって劣化しているかどうかを知る必要があるため、単一の測定値を単独で扱うよりも、時間の経過に伴う TAN の傾向の方が有用です。酸価/TAN の定義は、中和要件によって酸性度を定量化することを保証します。

質問: **26**
時間管理タスクは通常、以下のどのタイプの障害パターンを対象とするでしょうか？
A. 年齢に関連した
B. ランダム
C. 乳児死亡率
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はAです。経年劣化が原因である場合です。時間管理型のタスクは、故障の確率が経年劣化、稼働時間、サイクル数、または累積使用回数とともに増加する場合に正当化されます。この場合、定期的な交換、修復、オーバーホール、または点検を行うことで、機能不全が発生する前に対応できるほど劣化パターンが予測可能なため、故障の可能性を低減できます。ランダムな故障は、単に対象物が暦年を経過したからといって故障確率が増加するわけではないため、時間管理型のタスクの対象としては適していません。
ランダムな故障モードに時間ベースのメンテナンスを適用すると、労力を無駄にしたり、有用な部品を時期尚早に交換したり、メンテナンスによって欠陥が生じたりする可能性があります。初期故障率という概念も誤りです。初期故障は通常、設計、製造、設置、試運転、品質、または作業上の欠陥に起因するからです。これらは、品質管理、試運転、バーンイン、精密な設置、および欠陥の排除によって適切に対処できます。CRLのメンテナンス信頼性エンジニアリングでは、メンテナンス作業の選択は故障挙動に合致していなければなりま

せん。RCMのガイダンスでは、明確な経年劣化による故障パターンがある場合、計画的な修復または交換が正当化されることが確認されています。

質問: **27**
以下のうち、状態監視技術の利用を促進する要因はどれでしょうか？
A. 故障モード
B. 技術力
C. 技能認定
正解: **(**正解を表示します**)**
正解は「故障モード」です。状態監視は、資産が故障する可能性のある方法に応じて選択する必要があります。振動解析は多くの回転機械の欠陥に有効です。オイル解析は潤滑油の劣化、汚染、摩耗粉に有効です。サーモグラフィは熱関連の電気的および機械的異常に有効です。超音波は漏れ、アーク放電、コロナ放電、および特定のベアリング状態に有効です。適切な技術は、検出される故障モードによって異なります。オプションBは、技術的能力が戦略を支えるべきであり、戦略を推進するべきではないため誤りです。入手可能、流行、または技術的に印象的であるという理由で技術を購入すると、関連する欠陥を検出できない場合、信頼性に関する意思決定が不適切になります。オプションCも、認証は技術者の能力を証明するものであり、どの状態監視方法が技術的に適切かを決定するものではないため誤りです。CRL資産状態管理では、機能障害が発生する前に保守が介入できるように、状態指標を信頼できる故障モードに一致させることが規律です。状態ベース保守のガイダンスでは、CBMプログラムは資産およびコンポーネントの故障モードに基づいており、それらのモードに適した監視機器を使用する必要があると明記されています。

質問: **28**
オペレーター主導の信頼性プログラムにおいて、ある作業がオペレーターの学習に適していると判断された場合、通常、以下のどの分析が実施されますか？
A. ニーズ／スキル／時間
B. 義務／ステップ／ニーズ
C. タスク／コスト／資産
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はA. ニーズ/スキル/時間です。オペレーター主導の信頼性プログラムでは、すべての保守または検査タスクを自動的にオペレーターに引き継ぐべきではありません。タスクが適切と思われる場合、組織は、実際の運用上のニーズがあるかどうか、オペレーターが必要なスキルを持っているか、または習得できるかどうか、そしてオペレーターの標準作業でタスクを正しく実行するのに十分な時間があるかどうかを分析する必要があります。オプションBは、職務とステップの分析は手順の開発を説明するかもしれませんが、能力と作業負荷に完全には対応していないため、より不十分です。オプションCも、タスク、コスト、および資産は、オペレーター主導の信頼性の中心となる人間のパフォーマンスの問題を捉えていないため、誤りです。ODRは、オペレーターが訓練され、タスクが明確で、実行時間が利用

可能で、運用と保守の境界が尊重されている場合にのみ成功します。CRL作業実行管理では、ODRはオペレーターに作業を押し付けるのではなく、基本的なケア、早期の異常検出、および機器の所有権を向上させるための制御された作業再分配です。

質問: **29**
生産工程における制約や障害を取り除くために用いられる分析手法として、次のうちどれが挙げられますか？
A. RAM分析
B. 制約理論
C. 職場研究
正解: **(**正解を表示します**)**
制約理論（Theory of Constraints）が正解です。なぜなら、この質問は生産プロセスにおける制約、障害、またはボトルネックを特定し、排除することについて尋ねているからです。制約理論では、すべてのシステムには全体のスループットを制限する制約が少なくとも1つ存在すると考えます。改善の取り組みは、その制約を特定し、活用し、他の作業をそれに従属させ、優先順位を上げ、制約が移動した際にはこのサイクルを繰り返すことに向けられます。
RAM分析は最適な解決策ではありません。信頼性、可用性、保守性分析は資産のパフォーマンスとシステムの信頼性を評価するものであり、ボトルネックを解消するための生産フローの手法を具体的に説明するものではないからです。作業研究は方法、労働力の利用、タスクの効率を改善できますが、より広範な産業工学ツールであり、統制システムの制約を具体的に対象とするものではありません。CRLの観点から言えば、これは作業実行管理に該当します。なぜなら、保守と生産実行は、フローをサポートし、無駄を排除し、価値提供を制約する資産の可用性を向上させる必要があるからです。TOCは、製造業においてボトルネックと呼ばれる最も重要な制限要因を特定するための手法として明確に説明されています。

質問: **30**
資産処分を決定する際の主な要因は次のうちどれですか？
A. 価値
B. 予算
C. 年齢
正解: **(**正解を表示します**)**
資産の処分決定は、予算や経年劣化だけでなく、価値に基づいて行うべきです。成熟した資産管理においては、処分はライフサイクル全体を通しての決定であり、パフォーマンス、コスト、リスク、機会、コンプライアンス、安全性、環境負荷、利害関係者の要求事項を考慮した上で、資産が組織目標に対して許容可能な価値を提供し続けているかどうかに基づいて判断されます。選択肢Bは、予算制約がタイミングに影響を与える可能性はあるものの、決定的な要因となるべきではないため誤りです。予算主導の処分決定では、有用な資産を時期尚早に処分したり、代替資金がないためにパフォーマンスの低い資産を保持したりする

可能性があります。選択肢Cも、経年劣化だけでは不十分な指標であるため誤りです。古い資産の中には信頼性が高く経済的なものもありますが、新しい資産の中には、パフォーマンスの低下、陳腐化、許容できないリスク、またはビジネスニーズの変化により不適切になるものもあります。ISO 55000は、資産管理を資産から価値を実現することを中心に定義しており、資産管理協会は、資産管理を、組織目標を達成するために、望ましい資産パフォーマンスに対してコスト、機会、リスクのバランスを取ることと説明しています。したがって、価値こそがCRLに沿った答えとなります。

質問: **31**
メンテナンススケジュールを確定する頻度に関するベストプラクティスは、次のうちどれですか？
A. 毎日
B. 月刊
C. 週刊
正解: **(**正解を表示します**)**
最適な答えは週単位です。なぜなら、保守スケジューリングの規律は通常、固定された週単位のスケジュールに基づいて運用されるからです。計画では、準備が整った作業を特定し、スケジューリングでは、準備が整った作業を時間枠、人員能力、資産の可用性、部品、工具、および運用との調整に割り当てます。スケジュールが日単位で固定されている場合、作業が常に再編成されるため、組織は通常、受動的な状態になります。月単位で固定されている場合、スケジュールはほとんどの運用環境にとって硬直的になりすぎて、生産期間の変更、突発的なリスク、労働力の可用性、または部品の準備状況を現実的に考慮することができません。週単位の固定は適切なバランスを提供します。計画された作業を十分に保護してスケジュール遵守を向上させつつ、真の緊急事態に対する管理されたレビューも可能にします。CRLのWEM領域では、目的は作業指示書を作成することだけではなく、信頼性作業を予測可能に実行することです。ReliabilitywebのWEM資料では、多くの信頼性および資産管理戦略が実行段階で失敗することを強調しており、週単位のスケジュール保護はコアとなる実行管理手法です。業界のスケジューリングガイダンスでも、固定された週単位のスケジュールが標準的な手法として説明されています。

有効的な**CRL**問題集はJPNTest.com提供され、**CRL**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**CRL**試験問題集を提供します。JPNTest.com CRL試験問題集はもう更新されました。ここで**CRL**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/CRL-mondaishu 1**128**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: **32**

以下のうち、資産運用の長期的なメリットとして一般的に考えられているものはどれですか？
A. 資産ライフサイクル全体に関する意思決定
B. 売上増加
C. スペアパーツの削減
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はAです。資産ライフサイクル全体にわたる意思決定。資産管理は、ニーズの特定、設計、仕様策定、取得、設置、試運転、運用、保守、更新、交換、廃棄といった資産のライフサイクル全体にわたる意思決定を改善することで、長期的なメリットを生み出します。資産がより良いサービスや生産量を提供すれば、間接的に売上が増加する可能性がありますが、これは資産管理の核心的なメリットではありません。在庫最適化によってスペアパーツの削減も可能になりますが、重要度やリスクを考慮せずにスペアパーツを削減すると、信頼性が損なわれる可能性があります。真のメリットは、コスト、リスク、パフォーマンス、機会、価値に基づいた、より良いライフサイクル意思決定です。資産管理は、短期的な意思決定が長期的なコストやリスクを生み出すことを防ぎます。例えば、最も安価な資産を購入すると、運用コスト、保守負担、ダウンタイム、安全リスクが増加する可能性があります。ISO 55000は、資産管理を原則と期待されるメリットに基づいて構成していますが、IAMライフサイクル価値ガイダンスは、資産ライフサイクル全体にわたる資産関連のコストと価値に影響を与える意思決定を扱っています。

質問: **33**
組織が障害の削減を推進する際に、通常、稼働時間要素のどの領域に重点を置くでしょうか？
A. 保守のための信頼性工学
B. 業務遂行管理
C. 信頼性のためのリーダーシップ
正解: **A (**コメントを発表する**)**
保守のための信頼性工学は、故障の削減が主に故障モード、故障原因、保守戦略、予防保守の最適化、信頼性中心の保守、根本原因分析、および欠陥の排除の工学的分析を通じて達成されるため、適切な領域です。作業実行管理は不可欠ですが、その主な重点は、計画、スケジューリング、資材管理、オペレーターの関与、および規律ある作業プロセスを通じて作業を正しく実行することです。信頼性のためのリーダーシップも不可欠ですが、これは故障を直接分析して削減する技術領域ではなく、スポンサーシップ、文化、整合性、およびガバナンスを提供します。CRL認証は、REM、ACM、WEM、LER、およびAMの5つの稼働時間要素領域を中心に明確に構成されています。REMは、保守戦略と故障防止に信頼性工学のロジックを適用するため、故障の削減に最も直接的に関連する領域です。実際には、組織が再発する故障を減らしたい場合、資産がどのように故障するか、どの故障モードが重要か、どのような結果が生じるか、どの保守または再設計アクションが再発を防ぐかを理解する必要があります。それがREMであり、単なる実行やリーダーシップではありません。

質問: **34**
サービスレベルという用語は、通常、次のうちどれを指しますか？
A. 接客効率
B. サプライヤーの一貫性
C. スペアパーツの入手可能性
正解: **C** (コメントを発表する)
正解は「スペアパーツの可用性」です。保守資材管理において、サービスレベルとは通常、倉庫または在庫システムが、必要なときに必要な部品を提供できる能力を指します。高いサービスレベルは、在庫切れ、緊急調達、作業指示の遅延、スケジュールの中断、および機器のダウンタイムの延長を削減します。付添人の効率は倉庫のパフォーマンスに影響を与える可能性がありますが、サービスレベルという用語が通常意味するものではありません。サプライヤーの一貫性は、補充の信頼性、リードタイム、および調達パフォーマンスに関連していますが、在庫サービスレベルの直接的な尺度ではありません。CRL作業実行管理では、必要な部品が入手できない場合、綿密に計画された作業でも実行時に失敗するため、スペアパーツのサービスレベルが重要になります。組織は、可用性と在庫維持コストのバランスを取る必要があります。重要なスペアパーツは高いサービスレベルを正当化する可能性があり、重要度の低いアイテムは低いサービスレベルを受け入れる可能性があります。スペアパーツ在庫管理ガイダンスは、機器のライフサイクル全体にわたって機器を維持するために必要な交換部品の可用性を計画、管理、および最適化するための規律を定義します。

質問: **35**
資産ライフサイクルのどの段階で、コストの大部分が発生しますか？
A. オペレーション
B. ビジネスニーズ分析
C. 取得フェーズの作成
正解: **(**正解を表示します**)**
資産ライフサイクルコストの大部分は通常、運用中に発生します。取得または作成フェーズでは多額の資本支出が必要になる場合がありますが、ライフサイクルコスト全体は、通常、運用コスト、保守コスト、エネルギー消費、ダウンタイム、修理、スペアパーツ、労働力、検査、コンプライアンス、リスク管理、故障、改造、および最終的な廃棄準備によって長期的に支配されます。ビジネスニーズ分析は重要です。なぜなら、初期段階での不適切な決定はライフサイクルコストを高く固定化してしまう可能性があるからです。しかし、コスト自体は主に資産の運用期間中に顕在化します。作成/取得フェーズは将来のコストプロファイルの大部分を決定しますが、長寿命の産業資産では、コストの大部分が発生するのはこのフェーズではありません。CRL資産管理では、これが重要な概念です。最低購入価格が最高のライフサイクル価値と同じではありません。資産管理では、資産のライフサイクル全体にわたって、コスト、パフォーマンス、リスク、機会、および価値のバランスを取る必要があります。IAMとGFMAMのガイダンスはどちらも、組織目標を達成するためにコスト、機会、

リスク、およびパフォーマンスのバランスを取ることを中心に資産管理を捉えており、ライフサイクルコスト管理が最も顕著になるフェーズとして運用フェーズを支持しています。

質問: **36**
資産管理方針に含まれる項目は次のうちどれですか？
A. 組織の目標達成のための計画
B. 組織目標と企業目標
C. 資産運用担当者の役割と責任
正解: **(**正解を表示します**)**
資産管理方針には組織の目標と方向性が含まれているため、Bが正解です。
資産管理ポリシーは、意図、整合性、および原則に関する高レベルの声明です。組織の目標をサポートし、資産管理目標の枠組みを提供する必要がありますが、それ自体がそれらの目標を達成するための詳細な計画ではありません。そのため、オプションAは誤りです。この計画は、より適切には戦略的資産管理計画または資産管理計画に属します。オプションCも誤りです。個々の役割の定義と責任は、ガバナンス、組織設計、職務記述書、またはRACIタイプの文書に属するものであり、ポリシーの主要な内容ではありません。CRLのAMドメインでは、資産管理ポリシーは、企業の方向性を資産関連の意思決定に結び付け、パフォーマンス、コスト、リスク、およびライフサイクル価値が一貫して管理されるようにします。ISO 55001は、資産管理システムを確立、実装、維持、および改善するための主要な管理システム規格であり、ISOに準拠した資産管理は、資産管理目標を効果的かつ効率的に達成することに重点を置いています。

質問: **37**
資産管理方針にはどのような内容が含まれていますか？
A. 役割と責任
B. 詳細な資産管理計画
C. 指導原則と目標
正解: **C (**コメントを発表する**)**
正解は C です。指導原則と AIM 。資産管理ポリシーは、組織の資産管理に関する意図、方向性、原則を明記した高レベルのリーダーシップ文書です。資産管理目標を設定するための枠組みを提供し、資産に関する意思決定を組織の目的に合わせる必要があります。オプション A は、役割と責任はガバナンス文書、職務記述書、手順、RACI マトリックス、または資産管理システム構造に含まれるため、誤りです。オプション B も、詳細な資産管理計画または戦略的資産管理計画がポリシーを具体的なライフサイクルアクション、リソース、優先順位、およびプログラムに変換するため、誤りです。ポリシーは計画よりも上位に位置します。CRL 資産管理では、ポリシーが方向性を示し、計画が実行を定義するため、この区別が重要です。
資産管理方針は、運用、保守、エンジニアリング、財務、調達、および経営陣における意思決定を導き、資産に関する意思決定が組織の目標と整合するようにする必要があります。ISO

55001の導入ガイダンスでは、資産管理方針が資産管理目標を設定するための枠組みを提供するものであることが確認されています。

質問: **38**
次のうち、資産に関する利用可能なすべてのデータと観測結果を含むものはどれですか？
A. 資産状態情報
B. 計画とスケジュール
C. 臨界性分析
正解: **(**正解を表示します**)**
資産状態情報（Asset Condition Information）が正解です。なぜなら、この質問は、資産の観測および測定された状態を表す情報群を求めているからです。CRL/Uptime Elementsの構造では、これは資産状態管理（Asset Condition Management）に属します。ACMは、資産の状態を理解し、状態の証拠を収集し、その証拠を使用してより良い保守および資産管理の意思決定を行うことに関係しているからです。資産状態情報には、検査観察、オペレーターチェック、振動測定値、オイル分析、サーモグラフィ、超音波、プロセスデータ、アラーム、故障履歴、その他の状態指標が含まれます。計画とスケジューリングは、保守作業の準備とタイミングを扱うものであり、状態の証拠自体を収集するものではないため、正解ではありません。重要度分析も、結果とリスクに基づいて資産をランク付けするものであり、すべての資産観察を網羅するものではないため、誤りです。Reliabilitywebは、ACMを組織の目標に沿って資産からの価値を最大化することに焦点を当てたものと説明しており、そのためには状態情報を通じて現在の資産の状態を理解する必要があります。

質問: **39**
資産のライフサイクルの以下の段階のうち、信頼性に関する意思決定を行うのに最適な時期は通常どれですか？
A. 作成 -取得フェーズ
B. 仕様策定 -設計段階
C. 運用 -保守フェーズ
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はBです。仕様策定と設計フェーズ。信頼性に対処する最適な時期は、資産の購入、設置、または試運転の前です。仕様策定と設計の段階で、組織は信頼性要件、保守性、アクセス性、冗長性、材料、コンポーネントの品質、動作範囲、標準化、検査アクセス、潤滑ポイント、状態監視規定、ライフサイクルコスト要因に影響を与えることができます。資産が運用および保守フェーズに達すると、多くの設計上の弱点がすでに固定化されており、組織は保守、変更、または交換によってその結果を管理せざるを得なくなります。作成/取得フェーズは重要ですが、仕様策定と設計は信頼性要件が技術的な決定に変換される段階であるため、より正確です。CRL資産管理では、ライフサイクル思考が不可欠です。初期の決定が将来の資産コスト、リスク、およびパフォーマンスの大部分を決定するからです。ISO 55001

資産管理要件は、資産管理システムの確立と改善に重点を置いており、ライフサイクル価値はそのシステムの中心です。

質問: **40**
スチームトラップのテストを行う際に、一般的に用いられる手法はどれですか？
A. 超音波検査
B. 水質検査
C. 圧力試験
正解: **A** (コメントを発表する)
正解は A. 超音波検査です。スチームトラップは、その動作状態によって検出可能な高周波音パターンが発生するため、超音波を使用して検査されるのが一般的です。正常に動作しているトラップは、開いたまま故障している、閉じたまま故障している、漏れている、吹き抜けている、またはサイクルが正しくないトラップとは異なる音響特性を持っています。水質検査は、水質化学がスチームトラップが適切に機能しているかどうかを直接証明するものではないため、適切な手法ではありません。圧力テストは、システム圧力または境界の完全性を確認することはできますが、スチームトラップの性能の通常の状態監視方法ではありません。資産状態管理では、検査技術は故障モードに一致する必要があります。スチームトラップの故障は、異常な流れ、乱流、漏れ、または無音を引き起こしますが、超音波はシステムがオンラインのときにこれらすべてを検出するのに役立ちます。このため、超音波検査は実用的で一般的に受け入れられている方法となっています。SDT は、超音波を、故障したスチームトラップを検出し、開いた、閉じた、漏れている、または乱流状態を識別するための業界標準ツールとして説明しています。

質問: **41**
コンピュータ化された保守管理システムの要件仕様に一般的に貢献するのは、次のうちどれですか？
A. 価格構造
B. システム機能
C. トレーニングニーズ
正解: **B** (コメントを発表する)
正解はBです。システム機能。CMMSの要件仕様書では、システムが実行しなければならないこと、つまり作業指示管理、資産階層、予防保全、是正保全、計画およびスケジューリングのサポート、在庫管理、購買統合、障害コード、レポート、モバイルアクセス、権限、およびデータ構造を定義する必要があります。価格構造は、調達および商業評価の段階で重要になりますが、要件仕様書の主要な内容ではありません。トレーニングのニーズは、実装および導入において重要ですが、機能的なシステム要件とは異なります。CRL作業実行管理では、CMMSは作業識別、計画、スケジューリング、実行履歴、資材管理、およびパフォーマンスレポートをサポートします。システム機能が明確に指定されていない場合、組織は魅力的に見えるものの、必要な作業管理プロセスをサポートしないソフトウェアを購入してし

まう可能性があります。CMMSの要件概要では、通常、作業指示処理、資産階層、予防および是正作業、レポート、および関連するシステム機能などの機能要件について説明します。

質問: **42**
次のうち、電気試験の例はどれですか？
A. 電圧電位監視
B. 馬力モニタリング
C. トルクモニタリング
正解: **(**正解を表示します**)**
電圧電位監視が正解です。電圧は電気的パラメータだからです。電気試験と監視では、電圧、電流、抵抗、絶縁状態、位相バランス、電力品質、放電活動などの値を測定することにより、電気システムとコンポーネントの状態、性能、またはリスクへの曝露を評価します。電圧電位監視は、このカテゴリに直接該当します。馬力監視は主に電力または負荷性能の測定であり、この質問の直接的な電気試験カテゴリではなく、機械の出力、モーターの負荷、またはプロセス要求に関連付けられることがよくあります。トルク監視は機械的なものであり、回転力を測定し、シャフト、カップリング、ギアボックス、ファスナー、回転機器により密接に関連しています。CRL資産状態管理の領域では、管理対象の故障モードに適した状態監視技術を選択することが重要です。電気的欠陥には電気的インジケータが必要であり、機械的欠陥には機械的インジケータが必要であり、プロセス上の問題にはプロセスインジケータが必要です。したがって、電気的試験に電圧電位監視を選択することは、機械的または生産性能の状態ではなく、電気的状態を測定するため、技術的に正しいと言えます。NASAの電磁スペクトルに関するガイダンスも、異なるセンシング技術が異なる物理エネルギー形態を検出することを確認しており、これは状態監視に適用されるのと同じ論理である。

質問: **43**
オペレーター主導の信頼性プログラムを開始する前に、通常、以下のどのプログラムを導入しておく必要があると考えられますか？
A. 業務効率化
B. 資産運用
C. 計画とスケジュール
正解: **(**正解を表示します**)**
正解はC.計画とスケジューリングです。オペレーター主導の信頼性（ODR）では、オペレーターが機器の保守、異常の早期発見、検査、清掃、潤滑チェック、欠陥報告に積極的に参加します。これにより、すぐに作業需要が発生します。計画とスケジューリングが不十分な場合、オペレーターの発見は計画外のバックログ、重複した要求、不満、そして最終的にはODRプログラムへの信頼の喪失につながります。オペレーショナル・エクセレンスはより広範であり、資産管理もより広範ですが、どちらもオペレーターが特定した欠陥を直接実行可能な作業に処理するものではありません。計画とスケジューリングは、発見を範囲が定められ、優先順位が付けられ、リソースが割り当てられ、スケジュールが組まれ、完了し

た保守作業に変換する実践的な作業管理の基盤です。これがないと、ODRは信頼性向上メカニズムではなく、報告作業になってしまいます。CRL作業実行管理では、作業の特定と同様に実行規律が重要です。IDCONのオペレーターベースの信頼性に関する資料では、問題の発見、作業指示システムによる修理の優先順位付け、そしてそれらの計画とスケジューリングを重視しており、計画とスケジューリングを必須の実現プログラムとしてサポートしています。

質問: **44**
組織が最低100個のスペアパーツを在庫として必要とし、さらに25個の安全在庫を確保する必要があると判断された場合、次のうちどれがスペアパーツの再発注点となるでしょうか？
A. 4
B. 125
C. 75
正解: **(**正解を表示します**)**
正解は 125 です。発注点は、必要な最小在庫と安全在庫バッファーを合わせた数でなければなりません。この問題では、組織は最低 100 個の在庫を必要とし、さらに 25 個の安全在庫も必要としています。したがって、発注点は 100 + 25 = 125 です。オプション A の 4 は、提供されたデータに基づいていません。オプション C の 75 は、必要な最小在庫から安全在庫を誤って差し引いており、不足のリスクを防ぐどころか、不足のリスクを生み出します。保守資材管理では、計画保守または是正保守作業を実行する際に予備部品が利用可能でなければならないため、発注点が重要です。発注点が不適切だと、在庫切れ、緊急購入、スケジュール遅延、ダウンタイムの長期化につながります。発注点が過剰だと、資本が拘束され、保管コストが増加します。CRL 作業実行管理では、在庫精度と予備部品管理が保守作業の確実な実行をサポートします。標準在庫ガイダンスでは、発注点をリードタイム中の需要と安全在庫の合計として定義しており、これはここで使用されているロジックと一致します。

質問: **45**
約束を守れなかった場合、従業員は以下のどの行動をとるべきでしょうか？
A. 新たな決意をする
B. できるだけ早く片付けましょう
C. 彼らの最初の意図を表現する
正解: **B (**コメントを発表する**)**
正解はBです。できるだけ早く後始末をしましょう。これは、誠実さ、信頼、説明責任に関する、信頼性のためのリーダーシップに関する質問です。信頼性文化においては、人々は約束を信頼できる必要があります。スケジュールされた作業時間枠、RCAからのアクション項目、欠陥排除タスク、検査フォローアップ、安全対策、部門横断的な約束などです。誰かが約束を守れなかった場合、単に新しい約束をするだけでは不十分です。なぜなら、最初の失敗によって既に遅延、リスク、手戻り、または信頼の喪失が発生している可能性があるからで

す。最初の意図を表明することも弱いです。善意だけでは、破られた約束による業務上または人間関係への影響を修復することはできません。規律ある対応とは、失敗を認め、その結果を迅速に後始末することです。Reliabilitywebの誠実さに関するガイダンスでは、約束を破ったときに引き起こした後始末をできるだけ早く行うことで、約束を守ると述べており、誠実さは信頼とリーダーシップの信頼性に直接結びついています。

質問: **46**
次のうち、故障するまで稼働させるという保守戦略を推進する要因はどれですか？
A. 経済効率
B. 生産効率
C. 機械効率
正解: **(**正解を表示します**)**
正解は A. 経済的効率です。故障するまで稼働させる保守戦略は、資産が故障するまで稼働させ、その後修理または交換するという意図的な保守戦略です。これは必ずしも不適切な慣行ではありません。資産が重要ではなく、安価で、交換が容易で、重大な安全上または環境上の影響がなく、予防保守のコストが故障による影響よりも高い場合に適切です。故障するまで稼働させる保守は、故障によって生産が中断される機器には通常適していないため、生産効率は要因ではありません。機械的効率も要因ではありません。決定は経済的でリスクベースであり、機械的性能のみに基づくものではないからです。CRL 保守のための信頼性エンジニアリングでは、保守戦略は故障による影響と価値に合致する必要があります。すべての資産に予防保守を適用すると資源が浪費され、重要な資産が故障するまで稼働させるのは無謀です。経済分析により計画的な介入を行う価値がないと示された場合に、故障するまで稼働させる保守が正当化されます。Fiix は、故障するまで稼働させる保守を、機器が故障するまで稼働させ、その後修理または交換することと説明しています。

有効的な**CRL**問題集はJPNTest.com提供され、**CRL**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**CRL**試験問題集を提供します。JPNTest.com CRL試験問題集はもう更新されました。ここで**CRL**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/CRL-mondaishu 　**128**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

有効的な**CRL**問題集はJPNTest.com提供され、**CRL**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**CRL**試験問題集を提供します。JPNTest.com CRL試験問題集はもう更新されました。ここで**CRL**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/CRL-mondaishu 　**128**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」